

伊勢市観光振興基本計画推進委員会 平成 29 年度 第一回会議

日時 : 平成 29 年 6 月 15 日(木) 14:00~16:30

場所 : 伊勢市役所東庁舎 4-2 会議室

出席者 (敬称略)

: 委員 富本 (委員長)、江崎、中村 (基)、音羽、南、中林、矢吹、小崎、
奥田、増田、前田、山本 (武)、山本 (直)、高橋

【欠席】三浦、松本、堀

: 事務局 須崎、東世古、中村 (洋)、湯浅、小林 (以上、伊勢市役所)
高田、江藤 (以上、アルパック)

1. あいさつ

2. 委員紹介

3. 会議、ワーキンググループの位置づけ

資料 1 に基づき説明

4. 委員長、副委員長の選任

委員長に富本委員、副委員長に中村 (基) 委員が選任された

5. 現行計画について

資料 2、4、5、6 に基づき説明

6. 策定の考え方

資料 3 に基づき説明

○計画策定について、全面刷新や見直し、指標だけ変更等、様々な手法があるが、事務局としては、現行計画をしっかりと策定した経緯があることから、「見直し」(現行計画の加筆修正レベル)を提案したい。

⇒現行計画の見直しという方針で取り組むこととする。(議決)

7. 今後のスケジュールについて

資料 7 に基づき説明

8. 会議の進め方、テーマ案

資料 8 及び当日配布資料に基づき説明

⇒推進委員会、ワーキンググループでは「インバウンド」「人づくり・誇りづくり・魅力づくり」「スポーツ観光」という 3 つの視点で議論し、計画のまとめ方は議論の中で検討する。(議決)

9. 観光事業者等への意向調査

当日配布資料に基づき説明

以下、各委員からの主な意見等を記載する。

【宿泊客の分析とターゲット】

- 宿泊者の客層を分類しているのか。どの客層が増えており、どの客層が減っているのか。減っている客層に投資をしても仕方がない。
 - ⇒○伊勢市アンケート調査では、宿泊の有無、宿泊場所（伊勢市内か市外か）、周遊場所、消費金額等を調査している。ホームページでも公開している。
- 関東からのリピーター客が増えているようだが、まだまだ増えるはず。関東は人口が一番多く、富裕層も多い。ここへもっと発信し、新幹線を使えば名古屋から意外に近いということを知ってもらいたい。
 - ⇒○現行計画の基本方針4に基づき、九州等も含めて誘客に取り組んでおり、その中でも関東には力を入れている。計画に、「関東」という言葉を入れるかどうかは、検討いただきたい。

【地域資源の掘り起こし】

- 基本方針1では、「新たな地域資源の発掘、開発・磨き上げ」とあるが、伊勢の多様な資源を認識し、それを分析し磨き上げる視点がなければ、新しい資源も生まれてこない。神宮と絡めて磨き上げるスタンスが大切だ。
- サミット終了後にマスコミに取り上げられたが、特に「ブラタモリ」や「ぶっちゃけ寺」は、神宮の精神性や文化を若手に対して取り上げてもらった番組で、効果は大きかった。文化を大切に、持続的に集める魅力発信が必要だ。
- 10年、20年後を見据えた長期的な整備、PRが必要。
- 伊勢は観光資源に恵まれ過ぎている。賓日館や御師の家は、通常はみんな大切にして市もPRすると思うが、神宮があるため、埋もれている。二見も日本で初めて海水浴場に指定されたところだが知られていない。

【人づくりと地域の魅力づくり、誇りづくり】

- 担い手の養成方法がポイント。人づくりは実践の中で学ばせる必要がある。
- 「食」「観光」「まちづくり」がキーワードになり、伊勢のライフスタイルの確立を観光的に考えることが重要だ。
- U-35は子育て世代であり、伊勢で子育てしたいと思わなければ、ここに残っていない。
- まちづくりは人づくりと言うが、個人的には「誇りづくり」だと考えている。そこに住まうことを誇りとして感じて欲しい。

【小さなイベントの開催】

- ビッグイベントは20年単位だが、その間の小さなイベントをどのように継続して開催することも重要だ。運輸業はイベントで動くため、小さなイベントも大事にしたい。

【神宮と市の連携による魅力の強化】

- 今回の遷宮を契機に、伊勢市、観光協会、商工団体、神宮等が意見交換できる機会ができたのは、本当に大きい。垣根がなくなり、試行錯誤しながら協力できる環境づくりができたことは大きい。

【スポーツによる若者の誘客】

- 子供たちが伊勢へ最初に来るきっかけとして、スポーツという視点がある。インターハイや国体もあり、東京オリンピックやラグビーワールドカップもある。スポーツ観光という切り口で、伊勢に来るきっかけを作りたい。
- スポーツで注目されることをチャンスと考える。13万人の都市でこれだけのサッカー施設があり、近隣に宿泊施設もある。スポーツ誘客の環境はとても整っている。情報発信のチャンスとして、このイベントを逃してはいけない。
⇒○今年、国体推進課が出来た。伊勢市のみ観光のセクションに国体事務局を置いており、スポーツ観光をいい機会ととらえている。

【広域連携】

- 伊勢市ではお伊勢さんマラソン、志摩地区でもスポーツイベントがあり、広域連携も進めやすい。昨年は、伊勢志摩国立公園 70 周年で、まとめて発信できないか実験的に行った。今後も継続できると良い。
- まちの賑わいが足りない。中心市街地の活性化については、協議会やまちづくり会社を設立して取組まれており、それと連携した計画にすべきだ。

【関東からの観光客も含めたインバウンド対応】

- インバウンドについては、日本人に来てもらえるところでなければ、日本の良さを感じていただけないという想いの中で続けてきたが、今後はインバウンドを増やしていくとのことで、底上げができると考えている。
- 昨年の伊勢志摩サミットは大きな動きであり、インバウンドへの取組は重要だが、数を求めるのではなく、伊勢らしい対応を重視すべき。
- 外国の方に伊勢の魅力を伝えることは、関東の人たちの誘客にも繋がる。インバウンドにだけ集中しない方がいい。日本人たちに伝えた方が、かえって海外の方も喜ぶ。

【観光事業者等への意向調査】

- 前回調査は鳥羽・志摩も含めて、53 事業者に調査したとのことだが、計画を実行するのは地元の事業者である。総花的な意見かもしれないが、市内事業者が計画策定に関わったというプロセスは大切だ。前回調査と同様の 50 事業者程度であれば対応できないか。
⇒○計画推進の仲間を増やすことは大切だ。何かの機会に紹介できるだけでも良いかもしれないが、一度、事務局で相談して決めたい。

10. その他

次回の会議は 7 月 27 日(木)14 時～16 時に開催

以上